

2002年度 (2002年4月1日～2003年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.10 発行 (7月)
- ② 第12回総会及び講演会開催 (9月1日)
講演「ドナーアクション・プログラム(提供者掘り起こし活動)-新潟編-」
講師/高橋 公太氏(新潟大学泌尿器病態学分野教授)
- ③ 兵庫県臓器提供懇話会支援 (9月・2月)
懇親会 神戸港クルーズ
- ④ 神戸新聞に記事広告掲載「地元でドナー増やそう」(10月)
- ⑤ チャリティゴールフロン開催 (2003年3月)
収益金を腎友会・移植の会・ジャズミンの会に寄付
- ⑥ 兵庫県臓器移植推進協議会設立支援 (4月)
- ⑦ 日本臓器移植ネットワーク支援

2003年度 活動計画 (2003年4月1日～2004年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.11 発行 (7月)
- ② 第13回総会及び講演会 (7月)
- ③ 神戸新聞に記事広告掲載 (10月)
- ④ 講演会
- ⑤ 兵庫県臓器提供懇話会支援
- ⑥ 兵庫県臓器移植推進懇話会支援
- ⑦ チャリティゴールフロン開催
- ⑧ 「悲嘆にくれる家族に対する臓器提供の依頼」
ロールプレイング開催
- ⑨ その他



Gift of Life

兵庫腎疾患対策協会会報

2003.6.

Vol. 11

発 行：兵庫腎疾患対策協会
住 所：〒659-0093 芦屋市船戸4-1ラポルテ4F(安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144



ご挨拶

神戸大学大学院医学系研究科
腎泌尿器科学分野 教授
兵庫腎疾患対策協会
会 長 守 殿 貞 夫

2001年に本邦で施行された献腎移植数は129件で、年々漸減傾向にあります。私達の兵庫県内で2002年に行われた献腎移植数は4件(提供件数2件)にとどまっており、一方、県内で献腎登録されている移植希望者は500名以上いらっしゃいます。単純に計算して、登録しても献腎移植を行ってもらえるかは厳しい状況にあります。

移植医療の普及啓発活動は従来、市民ボランティアや患者団体の皆様を中心として行われてきた一方で、当兵庫

腎疾患対策協会も独自に行ってきました。この度、これらの活動をリンクさせて県下で臓器移植を待つ多くの患者様が移植の恩恵を受けられる様に、そして移植医療の普及啓発を県民、市民に對話を通して深めるべく一つの団体が設立されました。すなわち、2003年4月15日に前記の設立趣旨に基いて兵庫県臓器移植推進協議会発足しました。同協議会の特色としては、発起人に市民ボランティアやNPO団体の皆様が含まれており、一般市民との対話交流から地道に移植医療への理解が深まっていくことが期待されます。勿論、関係各医療機関においてもポテンシャルドナーの掘り起こしや、脳死をめぐる種々の誤解の水解、移植医と救急医及び脳神経外科医との連携など課題は山積しており、これらの解決に向け努力が必要です。

今後、本協会も腎移植推進に向けた活動を行って参りますので、皆様の御支援を引き続きお願い申し上げます。

タイガースのように パワーアップで腎不全対策を

国際ソロブチミスト神戸東
坂井瑠実クリニック院長
坂 井 瑠 実

総合的な腎疾患対策を目指して設立されたこの「兵庫腎疾患対策協会」も活動を始めて11年、腎移植推進に向けてのいろいろな取り組みがされてきました。しかし移植件数は減る一方で、移植を待っている患者さんをお預かりしている透析医としては、残念としか言いたくありません。移植件数とは逆に、透析患者数は年々増加して全国で23万人を越え、透析に至る現疾患のトップが糖尿病となっており、腎疾患対策はひとつとして糖尿病対策の側面を持つ必要があるのではないかと考えています。この飽食の時代、糖尿病だと指摘されても、食べたり飲んだりも仕事のうち、忙しい、時間が無いと言っているうちに、目が見えなくなり、透析が必要と言われて慌てる働き盛りの会社人間のなんと多いことでしょうか！ミゼラブルな気持ちで診療をしている昨今です。

ではどんな病気で透析になってしまうのでしょうか？もちろん大半は検尿で見つかる病気で、決して尿に蛋白

が出ていないから安心と言うわけではありません。糖尿病由来の腎不全が透析導入の第一位で、第二位は慢性腎炎、三位が腎硬化症。年齢と共に腎臓の働きは低下しますが、夜間何度もトイレに行くのは腎機能が落ちてきた証拠です。腎機能をチェックして下さい。厚生労働省の決めている透析導入の一つの目安は血清クレアチニンが8mg/dlですが、糖尿病はクレアチニンの値というよりは合併症、特に糖尿病性網膜症(失明)を防ぐために早めに導入することが大切です。糖尿病をはじめとする慢性腎不全を予防し、透析になってしまった人にはもっともっと移植の機会が増えるような運動の展開ができたらいと思っています。阪神タイガースのように今年こそ爆発的な力で移植医療が進むことを、総合的な腎不全対策が進むことを願ってやみません。

2003～4年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事(候補者) ※は新役員

神戸大学医学部部長 神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 教授 会 長 守 殿 貞 夫	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助教授 副 会 長 荒 川 創 一	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 教授 藤 岡 農 宏	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助手 森 村 美 佐 子	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助手 森 村 美 佐 子	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助手 福 西 孝 信
兵庫県移植コーディネーター 幹 事 赤 井 し の ぶ	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助教授 荒 川 創 一	兵庫腎移植の会 会長 川 瀬 喬	国際ソロブチミスト神戸東 坂井瑠実クリニック院長 坂 井 瑠 実	兵庫医科大学 教授 島 博 基	三田・寺植泌尿器科 教授 寺 植 一 徳
兵庫医科大学名誉教授 兵 本 照 子	兵庫医科大学病院 病院長 兵庫医科大学腎臓科 教授 高 光 義 博	神戸大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学分野 助手 竹 田 雅	国際ソロブチミスト神戸東 田 口 隆 子	三田・寺植泌尿器科 教授 藤 澤 正 人	
(社)全国腎臓病協議会 副会長 NPO兵庫県腎友会 会長 豊 永 清	佐野伊川谷病院 院長 兵庫医科大学救命救命 センター副部長 講師 内 藤 秀 宗	兵庫医科大学泌尿器科学 講師 野 島 道 生	国際ソロブチミスト神戸東 八 馬 富 久 子		
国際ソロブチミスト神戸東 坂井瑠実クリニック院長 安 井 多 津 子	NPO兵庫県腎友会 相談役 吉 永 和 正	NPO兵庫県腎友会 相談役 芳 野 芳 一	国際ソロブチミスト 神戸東保健福祉委員長 寺 植 一 徳		
高砂市民病院名誉院長 顧問 ※後 藤 武 男	長久天満診療所 会計監査 長 久 謙 三	国際ソロブチミスト 神戸東会長 寺 植 一 徳	事務局長 安 井 多 津 子		

兵庫県臓器移植推進協議会が設立されました

兵庫腎疾患対策協議会幹事・
兵庫腎移植の会会長

川瀬 喬

県内での臓器移植の普及を目指す「兵庫県臓器移植推進協議会」（会長：米田准三氏・元神戸商工会議所副会長）の設立総会が本年4月15日、神戸市の兵庫県健康財団において開催されました。同総会には、出席された発起人24名その他、移植コーディネーターや行政関係者などのオブザーバー8名、及び、一般市民の方々を含めて約70名の方が参加されました。

我国で「臓器移植法」が施行されて5年余り過ぎましたが、県内では脳死段階での臓器提供はなく、心停止後の腎臓提供は累計で9例となっています。県内で移植を希望して登録している患者達（約540人）にとって、現状のままではその期待に応えられない状況となっています。

この困難な状況を打破しようと、県内の有志者が発起人（患者会などの関係者や団体、「HANS阪神淡路大震災1.17希望の灯り」などの市民団体の代表、及び、兵庫腎疾患対策協議会の役員の方々などを含めた30名）となって、当推進協を立ち上げたのです。

当推進協は、行政の協力を得てつくられた民間団体です。その目的は県下における臓器移植の普及・啓発とその推進活動をはかることです。その活動の特色は、県民・市民に対して、主として対話を通じて行うことです。

今後の当協議会の運営に携わる役員の方達は別表の如く25名（会長1名、副会長3名、運営委員長1名、運営委員18名、監事2名）となっています。この役員の内、患者会などの関係者が8名に対して、市民として参加しておられる関係者の方達は全体の約70%にあたる17名の方が占めています。

臓器移植について、全国世論調査によると、その理解者はやや増えてはいるものの、無関心層が増え続けているのが実情です。また、今までの様な街頭やイベント等での普及・啓発活動（「意思表示カード」を一方向的に配布するやり方）では、一般の方々に移植の理解を得る事は難しい状況となっております。

この状況を踏まえて、当推進協は「移植を待たれている方達」「移植された方達」「臓器を提供されたご家族の方達」

「移植には関心はあるが、まだ、意思表示が出来ていない方達」「意思表示カードをまだよく知らない方達」などが、夫々考えの違う立場から夫々の思いを語り合うことを通じて、移植医療についてその理解を深めてゆこうと考えています。そのような対話活動により、移植医療についての正しい情報の提供とその理解をはかってゆきたいと考えています。今、その努力をし続けることの方が大切なことだと考えています。その結果として、一人一人が「意思表示カード」を持って頂ける様になれば幸いです。

兵庫県臓器移植推進協議会役員

（2023年6月現在）		
役職	氏名	所属
会長	米田 准三	元神戸商工会議所副会長
副会長	堀内 正美	NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り代表
	豊永 清	NPO法人兵庫腎友会 会長
	渡辺 忠男	(株)神戸ポートピアホテル 特別顧問
運営委員長	川瀬 喬	兵庫腎移植の会 会長
運営委員	守殿 真夫	兵庫腎疾患対策協議会 会長
	福西 孝信	兵庫腎疾患対策協議会 幹事
	坂井 瑞実	兵庫腎疾患対策協議会 幹事
	伴 智代	神戸骨髄輸血の会 代表
	濱田 諭俊	神戸市佛教連合会 会長
	藤本 昌男	園田学園女子大学 教授
	池田 寛寿	神戸新聞広告社 専務取締役
	渡部 進治	NPOあいあいネット神戸 特別顧問
	薬料 真吾	看護師
	森田 晋夫	兵庫県心臓蘇生法を広げる会 理事長
	外林 雅夫	(社)兵庫県柔道整復師会 理事
	曽我 明美	前兵庫腎移植コーディネーター 看護師
	今崎 陽吉	NPO法人総合文化推進機構 理事長
	木村 勝	ぐるーぶ架け橋 代表
	磯田 省三	トリオ・ジャン 関西支部長
	都倉 邦昭	ニューハートクラブ 代表
監事	木村 宏実	全国心臓病の子どものを守る会 兵庫支部長
	宮本 高宏	NPO法人兵庫腎友会 事務局長
	白木 利周	NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り 理事長
	米田 寛子	兵庫腎炎・ネフローゼを守る会 会長

※同一

第2回チャリティーゴルフコンペ開催

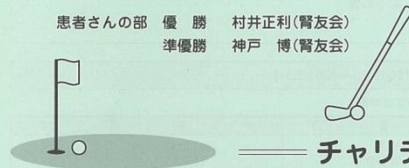
3月30日（日）好天の中 有馬カントリークラブに於いて 遷析患者さん、移植を受けられた方々など26名と泌尿器科・透析科などの医療従事関係者、兵庫腎疾患対策協議会会員、国際ソロプチミスト神戸東会員など参加者総数58名で和やかに開催されました。

入賞は全体と患者さん関係とに分けて計算しましたが、患者さん関係の方々の健闘が目立ちました。来年もさらなるご健闘を期待いたしています。



全体の部 優勝 野島道生(兵庫医科大学)
準優勝 村井正利(腎友会)

患者さんの部 優勝 村井正利(腎友会)
準優勝 神戸 博(腎友会)



チャリティーゴルフ大会に参加して

村井正利 (坂井瑞実クリニック、72歳)

今回、坂井瑞実クリニックからは院長、事務長、患者6名で総勢8名が参加しました。7ホール目までは何とかホギーベースで消化しましたが、8ホール目の第3打目残り100ヤードを9番アイアンでショットした際、ボールを打たずに地球を叩いてしまい右手中指・薬指に激痛が走りました。(診察の結果、靭帯断裂) 以後はその後遺症でショットは乱れ見苦しい結果となり、終わってみればスコアは100をオーバー、苦渋の1ラウンドでした。

従って、全く優勝などは念頭に無く何時も参加するのみで終わると自嘲気味にパーティーへ出席したところ、優勝(患者部門)と聞かされびっくりしました。ダブルペリアのため隠しホールに私の悪いスコアが嵌ってハンデキャップは32.4となっており、最高の賞を頂きました。同僚の松本・原田・伊丹様にはご迷惑をかけ、また労わって頂き有難うございました。賞品は折り畳み自転車と孫が愛用しており重宝しています。有難うございました。今回は、実力ではなく正に怪我の功名による優勝でした。最後に企画された関係者の皆様にも名門コースで回れたことをご感謝し、来年もよろしくお祈りいたします。

神戸 博 (ひまわりクリニック、52才)

私が、今回のチャリティーゴルフに参加したいきざしは、所属先の腎友会から「今年もゴルフ参加の連絡をしておきましたよ」と言われて、その参加を知った次第です。私が参加する理由には、三つの理由 ①体力維持②外部情報を得る③趣味のひとつです。この内、①については会社勤務しながら農業（稲作・ブドウ）をしているので健常者並みの体力が必要です。②についてはチャリティーゴルフの他に県内や全国大会に参加して情報を得ています。個人病院内の情報だけでは解消できないものがあります。③は昔からの継続といったところです。

今回開催された有馬カントリーは、神戸三田インターチェンジ近傍にあり、すばらしいコースでした。スコアは良くありませんでしたが、ダブルペリア方式で3位になり、喜んでおります。残念だったのは、プレー後の食費パーティで、調理だっさんの料理を目の前にして、抑えぎみに食べたつもりでしたが、翌日の検査ではリン値は非常に高くなっていました。

今回、主催された団体の方々には感謝しております。次回も是非参加させていただきますので、よろしくお祈りいたします。

若林幸男 (腎移植者、術後3年目)

私は、遷析治療中からも主治医の先生から足腰を、十分使いよく歩くように勧められてからウォーキングを始め、ゴルフも自分の身体にあわせ、治療中も月に1-2回定期的にプレーし、練習も時間があれば打ち放しにしています。腎臓移植後も以前と変わらないペースで、身体に十分配慮しながら取り組んでいると、昨年、初めてチャリティーゴルフの案内を頂き参加しました。本年も名門コースの有馬カントリー倶楽部の開催案内を頂き参加する事となりました。当日は、天候にも恵まれゴルフ日和となりました。私の組のパートナーはクリニックの先生と遷析者2名、そして私の4名でプレーしましたが、会話の中心は「健康管理・移植の体験・長期遷析そしてゴルフの楽しみなどチャリティーゴルフ独特の雰囲気で、終始和やかに楽しくプレー出来ました。これも協会主催側の大変なご努力のお陰だと、心から感謝申し上げますと同時に次回も参加したいとごめさすので、今後とも宜しくお願いします。

都倉邦明 (心臓移植者、術後8年目)

今回のチャリティーゴルフに参加させていただき有難うございました。

このように皆様とゴルフが出来ようになりましたのは移植医療のおかげです。

私は8年前アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴ、シャープ記念病院で心臓移植をしました。当時、国内ではまだ脳死からの移植は認められていませんでした。病気で余命半年と宣告され、海外での移植しか道がなかったため、また米国では移植が出来る確証はない、チャンスをつかむだけと、国内で死を待つが渡米してチャンスをつまむかの苦しい選択でした。

家内には、灰で帰るか骨で帰るのか覚悟をしてほしいと、死を覚悟しての渡米であった。アメリカの病院に入り70日目でドナーが出て無事移植をすることが出来た。退院は術後10日、長く外の空気を吸っていなかったため、酸素なしで呼吸をすることが怖かった。リハビリ、薬の調整、バイオプシーなどドクターの帰国OKがでたのは退院後5ヶ月目でした。移植する人はそれなりに物語を持っています、その物語を大事に生きていきたいと思っています。私の移植時にタッチしてくれた関係者、命を与えてくれたドナーに感謝します。

第13回 総会・講演会・懇親会のご案内

開催日…平成15年7月29日(火) 会場…神戸ポートピアホテル 南館4階 レヴァンテ

総会	18:00	総会
講演会	18:15~19:00	講師/吉永 和正氏 (兵庫医科大学救急センター副部長・講師) テーマ 「救急の現場からみた腎臓提供の変化」
懇親会	19:00~	会費7,000円